



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第407号

「ご自分に“かたどって”人を創造された」ことの 再認識で未来を描く

フランシスコ・アシジ 谷口尚志

教会は現在、「年間」という季節を過ごしています（諸派の一部の教会では「公現節」と呼ぶようです）。緑色の典礼色となりますが、その色の示す意味は希望、平和やいのち、成長です。この意味を深めるためには「公現節」という呼称の方がしっくりきます。なぜなら、イエス様の誕生によって神さまの思いがすべての人に示されたことで、わたしたちの人生は神さまとともに歩むことができる事実を伝えているからです。つまり、この季節は何もない季節なのではなく、神さまとともにある人生であることを特に意識しなければならない季節なのです。

創世記 1章 27節、2章 6節には、人が神にかたどられて、さらにご自分に似せて土を成形して息（「霊」と同じことば）を吹き込まれて創造されたとあります。神の特別な思いがわたしたちを形づくっていることは大きな驚きと慰めです。存在させたいものを完成させるためには熱意と根気が必要です。神はその熱意と根気で土の塵を丁寧にこねあげ、最高傑作である人を成形したのです。そして、その中に息、つまり神ご自身からくる霊を注入されて完全なものとされました。この霊は幽霊のようなものではなくて、理性のはたらきを生み出す源と言い換えることができます。すなわち、理性を司る「心」そのものです。

この創世記の記述から分かることは、人は本能や感情に依存することによってではなく、理性によって行動できる存在だということです。人が理性的動物だといわれる所以はここにあります。つまり、理性がはたらくのは人が神ご自身に由来しており、だからこそ、人が何よりも価値ある存在なのです。自分には価値がない、懸命に生きていても意味がない、このような思いは、神に由来するものではなくてこれまで築き上げてしまった判断基準によって社会や周囲から判断されること、また、自分で自分の価値を決めざるを得ないことなどによって生じているものなのです。だからこそ、信仰を持つわたしたちは、神によって啓示された事実

委員会等報告	2・3面
旅の話(3)	4面
幼稚園から	5面
お知らせ・教会学校より	6面

をとおして、人が何よりも価値ある存在であることを使命感と責任感をもって証ししなければならないのです。言葉と行動に責任を持つ、支配するのではなくて仕える、自分が神に愛されていることを受けとめて隣人への愛を示すことなど、証しなければならないことは山ほどあります。

新型コロナウイルスの猛威は衰えることを知らず、長期間にわたって人類に試練を与え続けています。いま一度、自覚すべきことは、人類は神なくして未来へ歩み出せないという事実です。つまり、神に完成させられた人類は、神の存在なくして進むべき未来を描くことはできないばかりか、過去の反省も活かすことができず、現在において希望をもって生きることができなくなるということです。実際、現代社会に価値を見出せず、生きることのできない人がどれほどいるのでしょうか。そのような人々が希望を見出せずにいるなかで、どうやって未来を描くことができるでしょう。現代社会が抱える様々な問題の解決のためには、底辺に欠けているともいえる“神とともに歩む”ことによって深まる生き方を証明するしかありません。

「年間」という季節を過ごす意味を知ったわたしたちは、「コロナ禍の前に戻るために今までしてきたことを続けるために何をするか」ではなく、「コロナ禍にあっても前より良くなるために、あるものは捨て、新たに始める」という意識を持たなければなりません。これは当然、教会活動にも当てはまります。現代社会が奔走しているからこそ、教会も奔走しなくてはいけないのです。神とともに新しいことを始めましょう。したいことをするのではなく、しなければならないことをするのです。したいことをするのであれば、それを教会活動と捉える必要はありません。一方、しなければならないことをしようとするとき、まず自分が神と人にと仕えていなければ到底できることではないので、おのずと自分の信仰生活とも向き合うことになります。



委員会等報告 2022年1月分

1 月度小教区委員会 1月16日

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 行事予定 | • 3月 2日(水) 灰の水曜日 |
| • 2月 6日(日) 小教区委員会 | 10時～、20時～。 |
| • 2月 12日(土) ベトナム語のミサ | • 3月 6日(日) 小教区委員会 |
| 19時～ | • 3月 12日(土) ベトナム語のミサ |
| • 2月 13日(日) 9時ミサ 1回のみ | 19時～ |

2. 議題

(1) 各委員会報告

①広報委員会

- ・チェック表を3地区ずつにまとめる。
- ・「こころのともしび」の受注数、「からしだね」の発行部数の集計は2022年1月の取得数の実績を踏まえつつ、会計で管理している名簿と照らし合わせて行うが、その作業は役員会にお願いしたい。

②典礼委員会

- ・降誕祭は今回も規模を縮小して協力をお願いして行った。コロナ禍にあって先が見通せないが、今後、復活祭に向けての協力要請の内容も検討したい。新しいミサ式次第の流れについて、2月6日(日)13時から1回目の研修を行う(初回なので朗読、司会者等の協力をして下さっている方に呼びかける)。

③営繕委員会

- ・2つある掲示板のうち、1つ(車道に面した掲示板)を撤去したが、そのスペースの活用方法については検討中。もう1つの掲示板については撤去後のことを考慮し(設置してある壁面の状態が不明なため)、検討中。新たな掲示板をトイレの外の壁面に設置したい(直射日光を浴びる心配もなく、誰でも目に付くところなので、広報活動の一環としても活用できる)。
- ・傾いている鐘樓の撤去について。傾いている鐘樓が問題なので、撤去したいが、安全面

を考慮し、業者に依頼しなければならないと見ている(夏休みまでには撤去したい)。鐘本体については鐘樓から外したのち、再度利用する方法を考えている。

(2) 屋根の葺き替え工事、建設献金積み立てについて

- ・教区長と教区顧問会から許可をいただき、業者に工事を依頼した(工事は幼稚園の夏季休暇期間中に行う)。工事を行う前に説明会を実施していただくが、事前の説明会を今週22日(土)10時から、おもに役員、営繕担当を含む小教区委員を対象に行う。その後、2月13日(日)9時ミサ後、全信徒への説明会を実施していただく。

- ・今月より建設献金の積み立てを開始したが規約がないため、手順としては前後するが、急ぎ、規約の作成を行う(役員会で)。2月の小教区委員会にて提示する。

(3) ベトナム人青年達との共同体づくりについて

- ・日本語習得のための学習会を毎月の第3日曜日9時ミサ後から行うこととする(2月より開始)。そのためのボランティアの募集を始める。

(4) 会計報告

- ・2021年度の会計報告(実績見込み、予算案)を行った。その際、パートの時給が適切かどうかの指摘があり、現在、定められている適正額の支払いを行うことを確認した。



旅の話 (3)

岩本光弘

シリアのアンティオキアの次に訪ねたのは聖パウロの故郷のタルソスでした。タルソスは東西の交易路の途中にある町で聖パウロの時代はとても栄えていましたが、今は小さな町になっています。聖パウロの実家はテントを作って売る商売をしていたそうです。この時代は遊牧民も沢山いましたからテントは大変重要な品物でしたのでパウロ家は裕福な家であったと言われています。聖パウロは各地でテント職人として働きながら宣教の旅を続けました。

タルソスの町には聖パウロの時代の遺跡は残っていませんでしたが、一か所だけ「パウロ家の井戸」と言う場所がありました。ここに入るのにお金が必要で、井戸の前には番人が居ました。井戸の横の壁には聖パウロの絵と説明が書いた板が張ってありました。

今回の旅はパウロの歩いた道を訪ねる旅ですから、私は聖パウロに近づくためにこの井戸の水をコップで二杯飲みました。心の中には、以前にルルドで二杯飲んだという考えがありました。

海岸の町のタルソスを出発してからバスはアナトリア高原に登って行きました。この道もパウロが歩いた道です。急激な坂道を登り切ったところは「キリキアの関門」と呼ばれるところで、アレキサンダー大王も通ったというガイドブックの説明を読んで楽しみにしていました。「われここを通れり」と書いたアレキサンダー大王の言葉の石碑は工事中で見ることができず残念でした。アレキサンダー軍はタルソスへ坂を下り、タルソスから数日の距離にあるイッソスの平原に出てペルシャ軍を打ち破りました。

翌朝のことでした。ホテルで目が覚めると腹がキリキリと痛むのです。前日の「パウロ家の井戸水」の祟りでした。このようなところの生水は絶対に飲んではいけないのに飲んだのです。馬鹿なことをしたことの代償は一日の絶食でした。知っていてやったことの代償なので、自業自得と自覚して我慢して昆布茶だけの絶食で乗り切りましたが、同行した友人たちは大笑いでした。

高原に上がって見たのは地平線まで続く麦秋の小麦畑でした。アナトリア高原は九州が二つくらい入る広い高原地帯でトルコの穀倉地帯です。小麦が終わるとジャガイモ畑が続きます。この畑の間にシルクロードの道が延々と伸びています。タルソスからバスで二日以上走ってやつと聖書に出てくる地名が出てくるのです。歩くと何日かかるのでしょうか。福音宣教のためにこの道を歩いた聖パウロの情熱と信仰は私の心に強く響いたのを思い出します。

聖パウロのようにすべてを捨てて宣教の旅をした聖人がいたからこそ、今の私たちの信仰に続いているのだと感謝するし、少しでも私たちも行動して信仰を表さないといけないことを実感しました。そして私の信仰の指針とすることができました。

この後にピシディアのアンティオキアの遺跡を訪ね、パウロが説教をした会堂跡地でミサをしてパウロの説教を味わいました。タルソスから何日歩いたのでしょうか。



水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 2月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

<水巻聖母幼稚園>

1月に新しい幼稚園の仲間『うさぎ』をお迎えしました。始園式の日、子ども達に発表して、とても嬉しそうでした。名前を子ども達から募集して、一生懸命考えて、お世話も頑張っています。命の大切さ、優しい心を育ててほしいです。

3学期が始まり、1つ大きくなる準備をしている子ども達。少しずつ、1つ上の学年になることを楽しみにしており、年長児は卒園まで残り少ない日々を、1日1日大切に過ごしています。新型コロナウイルスの感染が拡大してきて、行事が別のものに変更になっています。新型コロナウイルスで苦しんでいる人が、いなくなりますように日々子ども達とお祈りしています。



水巻聖母幼稚園 TEL : 093 201 9559

e-mail : ccontactus@mizumakiseibo.ed.jp

<マリア子どもの家>



昨年暮れから、新しい活動を取り入れました。
★「食卓の準備」：進んでやりたい2人が、1テーブルずつセットしていきます。ランチョンマットを配り、スプーン、フォーク、お茶碗、お椀、皿、小皿、コップと置いていきます。3テーブル(1テーブル4~5人)あるので20~30分くらいかかります。途中で別のやりたい子どもに交替することもあります。昼食の準備をしてくれた〇〇君、〇〇ちゃん有難うございました。



★「食器を洗う」：朝のおやつで使ったお皿を洗剤で洗い、右の桶でゆすぎ、布巾で包み拭きをします。子ども達は、台所仕事大好きです。

TEL : 050 5212 7759

HP : 水巻町マリア子どもの家
水巻聖母 幼稚園・マリア子どもの家

園長 水口 由美

教職員 一同

2月のおしらせ

★「新しいミサ式次第」の研修会★

日 時：2月6日(日) 午後1時～
対象者：典礼奉仕に携わる方

★ベトナム語のミサ★

日 時：2月12日(土) 午後7時～
司 式：ピーター・トアイ神父
どなたでも、参加できます。

★教会屋根についての説明会★

日 時：2月13日(日) 9時ミサ後
屋根の葺き替え工事についての説明会
をミサ後に行います。そのため、この日は
11時ミサはありません。

★日本語の学習会★

2月より第3日曜日9時ミサ後に、ベトナム青年達への日本語学習会を行います。第1回目は、2月20日です。
詳細は、神父様にお尋ねください。

★レプトン会より★

トラピストクッキーとミサワインの収益は25,310円でした。皆様のご協力に感謝いたします。
ペルーの子ども食堂支援金に使います。

★灰の水曜日(大斎・小斎)★

日 時：3月2日(水)10時～、20時～

教会学校のページ

12月19日

教会学校の子供達はミサ後、歳末の募金活動のお手伝いをしてくれました。子供達の呼びかけに、多くの信者さんにご協力いただきました。その後、皆でハンバーガー🍔とクリスマスケーキを食べ、少人数ながらも賑やかな時間を持つことが出来ました。また今回は、2歳の松尾しゅん君もご両親と共に初参加してくれました。新しいゲストに一段と喜びが増しました。教会でのしゅん君の成長がとても楽しみです。

たつき君、きぬかちゃん、ともきちゃん、まさきくん、

一年間ありがとうございました。

2022年は、コロナが収束し子ども達の生き生きとした活動が、

存分にできるようになること切に願っています。

